

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

染井の殿様が好んだ焼塩の味



炎天下のなか、発掘調査中
左側は地下室の入口が並ぶ

2010年、今年も染井に暑い夏と発掘調査がやってきた。津藩二十三万石余の外様大名である藤堂家染井屋敷の発掘調査が6月から始まった。クロス駒込四丁目地区は、昨年現地説明会を開催した三菱駒込四丁目第二マンション地区の少し北側にあたる。調査では立派な階段付の地下室などのほか、大型土坑からは享保頃（1710年前後）の陶磁器が大量に出土している。肥前産（現在の有田地方）の磁器碗や皿、京焼風陶器碗、唐津産（現在の北九州付近）の大鉢などが出土している。なかでも「サカイ 泉州麩生 御塩所」と刻印が押された土器の焼塩壺に注目したい。



大型土坑から出土した遺物の一部



大型土坑から出土した「サカイ 泉州磨生 御塩所」と刻印が押された土器の焼塩壺



焼塩壺とは塩を入れるための容器で、なかに臼で挽いた粗塩を入れ、蓋をして容器ごと焼いて精製したものだ。多くは土製のコップ型で、刻印が押されているものも多い。「泉州麻生」「泉州伊織」の2種類は数多く出土しているため、遺跡見学会などで見かけた方もいることだろう。なお「泉州」「泉州」とともに大阪府和泉のことで、当時は塩で有名な地域だ。こうしたブランドが売れば、必ず出てくるモノがある。模倣品である。「泉州麻生」と良く似た「泉州麻玉」「泉州磨生」は、この代表例だ。研究者の間では「ニセモノ系」の通称でも呼ばれているが、実際のところ、本当に単なるコピー商品であるかは現在も結論は出ていない。

いずれにせよ、藤堂家では「サカイ 泉州磨生 御塩所」を好んだ。さて、それはどんな塩味であったのかは、殿様だけが知っている。

(小川祐司・宮川和也)

【お知らせ】

この地区では、2010年8月7日(土)の午後2時から遺跡見学会を予定しております。詳細は別紙をご覧ください。

旧感応寺境内遺跡で区画溝を発見

目白駅の西側、目白三・四丁目に感応寺という名の寺院があったことをご存じでしょうか。11代将軍徳川家斉の寵愛を受けたお美代の方の強い意向によって建立され、造営時には奥女中も加わったと言われています。しかしながら天保の改革で廃寺となり、存続期間は、天保七年から十二年(1836～1841)のわずか5年間でした。

今回は、6月末に行なった調査で発見された1基の溝をご紹介します。当初は感応寺に関わる溝と思われましたが、わずかな出土遺物から溝が埋没した時期は18世紀初頭(元禄時代頃)まで遡る可能性が出てきました。すると、感応寺以前にあった安藤家下屋敷に作られた溝と考えられます。

現在は閑静な住宅街のため、大きな発掘調査はありませんが、小さな調査を通じて少しずつ地域の歴史紐解かれています。



旧感応寺境内遺跡の範囲と調査地点



発見された区画溝

北西から南東方向に延びる溝状遺構。幅1.2m、深さ60cm程で、掘り直して使っていました

豊島区の文化財展 2010 が始まります

豊島区内の発掘調査成果と出土遺物を写真パネルと実物資料で展示し、区内の文化財についても合わせて紹介します。今年は「江戸時代の巣鴨をあるく」と題して、巣鴨遺跡にスポットを当て、中山道(現在の地藏通り)に沿って栄えた巣鴨の町並みや当時の人々の暮らしぶりをのぞいてみたいと思います。(山田琴子)

期間: 2010年9月1日～9月14日 9時～17時(土日・祝日除く)

場所: 豊島区役所1階ロビー(最寄: JR池袋駅)

パンフレットは会場にて無料配布しております



巣鴨遺跡から出土した、地名や屋号が書かれた近代徳利

『染井』 『雑司が谷』 が刊行されました



調査区全景(東から)
奥の道路下に日光御成道が眠る



このたび刊行された『染井』の調査地区は、前号でご紹介した、「日光御成道」が発見された『染井』の調査地区に隣接しています。現在はJR駒込駅と一体となった「ホテルメッツ駒込」となっていますが、かつて江戸時代には、日光御成道に面して伝中の植木屋が軒を連ねており、ここもそうした一角であった事が判明しました。ここに居を構えていた植木屋の名は「伊藤太郎吉」、植木屋伊藤家は幕末から、実に山手線が付設される明治期までこの地に所在していました。本書はさきに刊行された『染井』とあわせて読んでいただくと、ちょうど一軒の植木屋の敷地全体を見渡すことができるでしょう。

(宮川和也)



出土した縄文中期の土器



『雑司が谷』は、東京メトロ副都心線に沿って敷設された環状第5の1号線の発掘調査報告書です。調査面積はそれほど広くはありませんが、近世の陶磁器などのほかに、明治末～大正期の飲食器を主とした数多くの生活用具が出土しています。その数は1,000個体以上、おおよそ4～8世帯分の道具類が捨てられていた計算になります。このほか竹本焼と考えられる植木鉢や、今戸の職人として有名な白井善次郎の刻印が押された北野神社千年祭かわらけなど、興味深い遺物も出土しています。

(小川祐司)



明治末～大正期の飲食器類の一部
飯碗だけでもこの量が出土しました

発掘調査報告書を会員価格で頒布いたします

このたび特定非営利活動法人としま遺跡調査会は、豊島区遺跡調査会が発行いたしました報告書(別紙参照)に賛助会員価格を設定いたしました。定価より20%割引と、大変お求めやすい価格で賛助会員の皆様に頒布いたします。

遺跡の発掘調査報告は、地域の歴史を紐解くうえで基礎となる考古学資料が数多く掲載されています。考察では豊島区の地理・歴史・環境などに熟知した各調査担当者が執筆し、興味深い報告がなされています。この機会に、読んでみてはいかがでしょうか。



染井遺跡 (豊島区 No.5 遺跡)

～ 豊島区最大の複合遺跡・原始・古代編 2 ～

日本で考古学が開始された明治年間には、すでに染井の縄文時代遺跡が知られていました。前回ふれた染井墓地内貝塚がそれです。1901(明治34)年の「東京人類学会雑誌」には、「シジミ、カキ、ハマグリ、ヒシガヒ」といった貝殻とともに、石斧の発見が報告されています。この貝塚の具体的な時期は不明ですが、縄文前期頃のいわゆる縄文海進によって、海が現在より内陸にまで及んでおり、カキやハマグリなどは比較的近くで採れたようです。縄文時代の丸木舟が発見された北区の中里遺跡や西ヶ原貝塚などは、染井霊園からそう遠くない場所に位置しています。

ところで、染井貝塚の発見が報じられた東京人類学会は、日本考古学の開拓者として知られる坪井正五郎によって1884(明治17)年に創始されますが、奇しくも坪井氏はこの染井霊園に眠っています。また、染井貝塚の発見者である蒔田鎗次郎も、染井霊園に隣接する勝林寺に彼のお墓があります。このように染井は、日本考古学史ゆかりの地であるとも言えるでしょう。

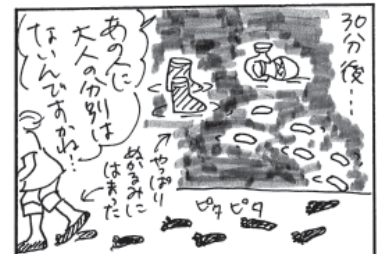
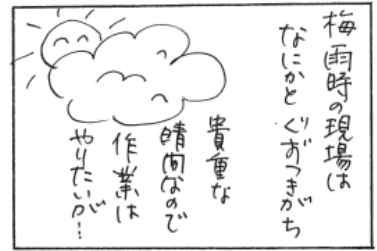


坪井正五郎の墓

このほか染井遺跡では、弥生時代の集落跡が2ヶ所で発見されています。かつては谷田川を望む台地縁辺部に、点々と弥生集落が営まれていたようです。一方、その後の古墳時代～平安時代については、土器などの遺物が稀に発見されるのみで、当時を知る手がかりは少なく、今後の発見が期待されます。(宮川和也)



染井遺跡出土の弥生土器



低地の夏は厳しい...。雨が降れば水たまり、晴れたら蒸し風呂。そんななか、敢えてイバラの道を歩む☺調査員を皆で暖かい目で見守ってあげましょう...

【編集後記】

梅雨も明けて夏空の下、調査会は大忙し。発掘調査に報告書の作成、展示と講座、見学会が目白押し。そんな中、朝顔の花が咲く日が待ち遠しい。 [担当:Ⓜ]

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来: 蕨は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蕨の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字: 湯澤和子

ロゴデザイン: 石原幸

イラスト: 千葉弘美

マンガ: Ⓞ

豊島区遺跡調査会刊行物一覧

書名	時期	内容	発行年	版 頁数	重 量	一般 価格	会員 価格
染井	縄文、 中世～近世	駒込村【植木屋】 馬埋葬遺構や、道路状遺構など、中近世の考察が充実。	2001年	A4版 172p	826g	2,000円	1,600円
染井	近世～近代	駒込村【植木屋、伊藤重兵衛家】 初代～五代の植木屋廃業までに至る変遷を追う。文献史料も用いた多角的な考察。	2002年	A4版 87p	492g	1,100円	880円
染井	旧石器・ 縄文・近世	駒込村【植木屋】 植木屋に関わる遺構・遺物多数。角錐状石器、ナイフ形石器が立川ローム層中より出土。	2006年	A4版 146p	699g	1,200円	900円
染井 XI	近世	津藩藤堂家下屋敷・抱屋敷 大規模な空堀で区画された屋敷内の土地利用の様子が判明。伊賀焼・焼塩壺・漆器・呪符かわらけ・文献史料など、考察多数。	2006年	A4版 637p	2,890g	6,000円	4,800円
染井	縄文・近世	津藩藤堂家下屋敷・抱屋敷 植栽痕、生垣などから庭園空間を推測。縄文時代は陥穴など。	2008年	A4版 72p	410g	1,000円	800円
染井	近世～近代	日光御成道・駒込村【植木屋 伊藤太郎吉家】 道路状遺構と側溝を検出。伝中の植木屋の範囲にあたる。	新刊 2009年	A4版 95p	530g	1,000円	800円
染井	縄文、 近世～近代	駒込村【植木屋 伊藤太郎吉家】 『染井』とあわせて一軒の植木屋の大部分を確認。	新刊 2010年	A4版 146p	758g	1,400円	1,120円
巢鴨町	近世～近代	巢鴨町【植木屋 斎田弥三郎家】 中山道沿いから敷地奥までを調査し、植木屋と料理屋の経営関係を探る。*残部僅少	2003年	A4版 279p	1,380g	3,000円	2,400円
伝中・ 上富士前	縄文～弥生 近世～近代	弥生時代（後期後半）の竪穴住居・駒込村【植木屋】 伝中・上富士前と同一の弥生集落。竪穴住居のうち1軒は粘土床炉。弥生土器器種別の胎土分析実施。大量の近世植木鉢、戦争期の遺構群と罹災した遺物群も豊富。	2005年	A4版 123p	598g	1,500円	1,200円
伝中・ 上富士前	縄文～近現代	弥生時代住居址（後期後半～終末期）・駒込村【植木屋】 土器は後期、中期宮ノ台式土器が出土。住居床面検出の「赤砂」の分析。谷田川右岸の弥生遺跡の展開についての検討など。	2006年	A4版 370p	1,408g	3,000円	2,400円
長崎並木	中世～近世	長崎村 中世後期～近世前期にかけての土地利用痕跡。近世～近代に至る変遷を網羅し、近現代への考古学的アプローチにも果敢に取り組んだ報告。	2006年	A4版 544p	1,896g	4,000円	3,200円
高松	旧石器～弥生 近世	長崎村・道路遺構 豊島区の郷土史家、三輪善之助による打製石斧の発見に端を発する遺跡。近世長崎村や中丸村の集落を結ぶ道路遺構を確認。	2006年	A4版 43p	227g	500円	400円
雑司が谷	近世～近代	高田四ツ家町 清戸通り（現目白通り）沿いに成立した町屋のウラ空間を調査。焼継印「三河屋」について。	2005年	A4版 96p	500g	1,200円	900円
雑司が谷	縄文、 近世～近代	雑司が谷村・高田村・高田四ツ家町ほか 明治末～大正年間の良好な資料が出土。近代型紙摺絵の変遷・世帯道具の組成を分析。	新刊 2010年	A4版 197p	1,365g	2,000円	1,600円

上記の報告書は郵送もいたします。（送料着払い）

お申し込み方法 : 書名・冊数と送り先の住所・電話番号・申し込む方の名前を書いて、本の代金を現金書留で、としま遺跡調査会に郵送してください。

お申し込み先 : 〒170 0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9-201 としま遺跡調査会

お問い合わせ先 : 03-3915-6962 tics389@a.toshima.ne.jp （としま遺跡調査会）

遺跡見学会の ご案内

染井遺跡・クロス駒込四丁目地区で江戸時代の遺跡（大名屋敷）が発見され、現在発掘調査を行っています。そこで遺跡の発掘現場を公開いたします。

日時：2010年8月7日（土）午後2時から午後4時まで（雨天中止）

調査員による解説を行います。（午後2時から1回）

場所：豊島区駒込4丁目15番8号




足下が滑りやすいですので、スニーカーなどでお越しください。

また大変暑くなることが予想されます。帽子などの暑さ対策をお願いいたします。

お問い合わせ：豊島区教育委員会教育総務部
教育総務課文化財係

03-3981-1190

または  特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

03-3915-6962



※駒込四丁目建設組合のご協力で調査を行っています。